

児玉新校校名案（事務局案）

校名案（事務局案）	基準	校名としての考え方（理由）	参考事項
児玉高等学校		<ul style="list-style-type: none"> ・「地域を示す」としたアイデア。 ・現在の「児玉高校」の名を引き継ぐのではなく、由緒正しい児玉町の町名に由来する校名と考えるもの。 ・旧児玉町唯一の新たな高校であり、原点に回帰した校名。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史ある学校同士を集約させる場合、全国的には、地域名だけの校名とするケースが多い。 ・校名アイデアには「こだま高等学校」という平仮名表記もあった。
児玉第一高等学校		<ul style="list-style-type: none"> ・「地域名＋」のアイデアの一つ。 ・旧児玉町第一の高校であること、両校の長い伝統を表現するものとする。 ・伝統ある旧制中学校や新制高等学校に多く用いられた歴史がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内にある私立の高校によく似た校名を持つ学校があり、系列校ではないかと誤解を受ける可能性がある。 ・旧制第一尋常中学（現浦和）や、新制高校では、浦和第一女子などの例がある。
児玉未来高等学校		<ul style="list-style-type: none"> ・「地域名＋」のアイデアの一つ。 ・未来という名は新校の今後の発展・充実をイメージさせるものであり、生徒たちの夢や希望を叶えるなどのプラスのイメージがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「未来」の名を冠した校名は、全国的には通信制高校や通信制サポート校に多い。 ・県内では、加須市に「未来」という名の付けた私立中高一貫校がある。
児玉白楊高等学校		<ul style="list-style-type: none"> ・地域名の「児玉」とともに、校地内にある「学校の象徴」であるポプラ（白楊）の名を付けたもの。 ・現在の児玉白楊高校の名を引き継ぐのではなく、「児玉」「児玉白楊」両校の校名を残したもの。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の学科を有する高校であり、特に普通科を設置していることを打ち出す工夫が必要である。 ・新校の設置場所と校名のいずれも児玉白楊となり、新校のイメージをしっかりと伝える必要がある。
雉岡高等学校		<ul style="list-style-type: none"> ・地域名を冠していない校名案。 ・雉岡は旧児玉町の中心部にある雉岡城からとったもので「学校の象徴」とするもの。 ・同城は、鎌倉時代から安土桃山時代末期までこの地にあった山城。現在は城址公園として整備されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児玉白楊高校では長らく国鳥でもある雉を飼育してきたという歴史がある。 ・児玉高校は雉岡城の三の丸跡に作られており、校章の意匠にも雉が用いられている。